

日時：平成14年2月13日

場所：高井戸保健センター

企画：自主グループ「菜の花会」思春期セミナー

講師：家庭教育研究所（ファミリー・コンサルティング・インスティテュート）代表 高橋愛子

プロフィール：慶応大学経済科卒業、東京都・埼玉県・神奈川県・静岡県等の教育委員会が主催する家庭学級の講師、保育園、学校、各種団体等で教育教師を担当、様々な講演活動も行なっている。

- ・東京都中高年勤労福祉推進委員、新経営研究フォーラム理事
- ・家族・企業・学校等の人間関係、体質改善のコンサルティング及びカウンセリング
- ・企業の社員研修、社会教育委員会主催の生涯学習の講師など

主な図書：「子どもの叱り方」「気絶するほどほめる子育て」「伸びるか曲がるか 思春期をどう乗り越えるのか 子育て後最後のチャンス」以上コスモトゥワン社より出版

タイトル ～ 思春期の危機と家族のあり方～

わたくしは、長い間大勢の方のご相談にのって参りました。本日は、今までいろいろな方から教えて頂きました事をまとめてお話させて頂き、皆様に自信を持っていただいて良い世の中を造りたいと願っております。

思春期の問題は、数限りなく御座いますが、突き詰めていきますと大人の問題なのです。

私の所へお父様からの電話がありまして、娘さんが中学1年生で、お風呂に一緒に入りたいけれど、どうしたら良いか、間違っているのかと言うお話でした。「娘は嫌がっていて母親はすごく反対しているけれど、僕はどうしても入りたい」とおっしゃいますので、お答えと致しまして、「思春期は、段々親を離れていく事が健康な1つの流れです。動物とは違い人間は考えて『子離れ親離れ』して行く事が、とても大事になる時期ですし、これからは、親よりも友達に感心が向かうようなお手伝いをしてあげて下さい」とお話ししましたら、ガチャンと電話をお切りになりました。その様に子供さんが大人に育って行くという事は、子供の問題では無いと思います。

又、先日は子供さんからの電話で、「うちのお母さんの事で相談がある」というので、「お母様どうなさったの」と聞きましたところ、「お母さん困っちゃってるんだ、お母さん問題なんだよ」とかなり興奮していて、そのうちドアの閉まる音が聞こえてその子は怯えた様に電話を切ってしまいました。私の推測ですが、虐待を受けているのではと感じました。その様に子供さんが親御さんの事を問題にして、子供自身からの相談も増えて参りました。

他にも、子供が小学校の連絡を『宿題もしない』と親に怒られるからと言う理由で連絡帳の内容を消してしまい親に何も言わない等があります。

今、「親に何も言わない」本当に苦しい時に「親に言えない」という子供達がとても増えています。世の中地球規模で環境の事を考えていらっしやいますが、思春期の心構えと対処法と申しますのも「心の環境」が大事であると思います。今、1人1人の心の環境が余りにも汚れすぎていると言うのが実感で御座います。

思春期のお子さんの問題は「お金の問題」「健康の問題」「人間関係の問題」があり、このうちお金の問題はハッキリした原因が目に見える問題ですから解決も早く出来ます。健康の問題は、命の関わる場所ですから難しいですけれども、病気ならば病院などでケアしたり状態によってクリアする事が出来ます。しかし、人間関係になりますと、外からいくら「あなたのお父さんは良いお父さんだから、好きになりなさい」「あなたは優秀なのだから自分のこと嫌ったら駄目よ」等と援助してあげても中々うまくはいきません。本人の気持ちが大元に御座いますから、本人が心に扉を造って鍵をかけてしまったら、外からドアを叩いて「学校に行きなさい」「外へ出てみんなと一緒に遊びなさい」と言っても、大人でも会社に行けなくなってしまう事がある訳ですから、本人が本当に「よしっ、やろう」という気持ちにならない限り動いていきません。人間関係につきましてはこれからもっと皆さんで考えて行かないと「人間が人間でなくなる」という恐さを私は感じます。

人間は脳で動いております。使うべき脳を使わないでいるとどんどん退化してしまいますので、今人間を取り戻して行かなければならないと思います。本当の人間としての「大人」が増えて行かなくてはなりません。人間関係の問題では3つの柱があると思います。

1つ目は、ご自身のことを好きでは無い方に問題が生じているようです。自分自身が好きでは無いので自分を育てる力が生まれてこないため、1個の人間として自立できない方が多いように見受けられます。

2つ目は、どのようにして生きていくか、生き方に対する自分自身の想い、生きていくための情報力が無い。情報や知識が無くて怯えている。知識があれば、知恵が生まれ対処の仕方に発展が見えますが、知識その物が体験が無いと言う理由もありますが、世の中の変化、その時代の生き方を心得る為の情報力が大事になります。

3つ目は、対話力です。これはとても大きな影響力があります。言葉には人を殺すも生かすも、自分を好きになるのも嫌いになるのも、全て、自分の心の中との対話を含め人間関係の問題の原因になっています。

ここで、思春期についてお話しておきますけれども、10歳位までに人間の基本的な脳、脳の回線が完成してくるのですが、脳の細胞は繋がる時にどのように繋がるかと申しますと、「あなたは可愛いね」と言われると「私は可愛い」という配線が出来ます。又、「あなたは駄目な子」と言われると「私は駄目な子」という配線が出来上がります。ネガティブな回線、肯定的な回線の違いは

あれ、この回線の重さが脳の重さになり10歳位で出来上がります。そして次の段階として生理的な回線が爆発的に発達する時期でもあります。人間の生殖種族保存の為の変化、女の子は産まれながらに卵子を持って生まれ、この時期になって毎月1つずつ排卵していく、しかし男の子はこの時期に初めて体に精子というものが宿ってくる訳ですから、体の中に爆発的なホルモンの変化があって不安を感じることになります。その時にちょうど学校での生活は急に学力が要求される時期になってくるので、子供たちはストレスの真っ只中に入ってしまう。子供として完成された時期で、大人としては赤ちゃんの時期で、子供でもあり大人でもある。「ことな」の時代で、大人、親の力や社会の力の関わりが人生の「勝利感」「敗北感」の決め手になってきます。

人間は狼に育てられると狼になり得ます。狼は人間に育てられても狼のままですが、人間は、接し方や環境でどのようにでも変わる事が出来ますから、子供が問題を起こしたとしてもこの時期に対処すれば良い事なのでご安心して頂きたいと思います。多くのお母様方は直面すると、人生の終わりのような感じを受けて「自殺したい」「難題から抜け出したい」と思い、辛くて仕方が無い訳ですけれども、企業の場合は取引で成り立っていますが、家庭は命を育む場ですから「取引」があっては成り立ちません。そこは奉仕の形、優しさをどこまであげられるのかという自分との戦いになり苦しい物です。人類何億年もの時間をかけて親子関係をつなげて来たのには、そこにはお金には代えられない「喜び」と言うものが存在するからです。その喜びを感じないうちに放棄してしまう事で問題は起きてくるのです。

現在の一般的な生活は電化製品などの普及によって大変便利になり、若いお母さん方は子供という時が一番辛いと言われる。育児以外は自分の思う通りに動きますが、子供は1人1人の意思があるので反抗してくる、ですから邪魔になる、こんな辛い事は無いとなってしましますが、昔のお母さんは社会的な環境が良く、物は有りませんでしたけれども毎日の生活の中で子供という時が一番楽しい時間になっていました。今の環境ではそんなことはほとんど無い状態で無理して作る状態にあります。一概にお母さんばかり責める訳には行きませんが、子どもという喜びをご自分で見つけていかない限り、「何で私たちは犠牲になるのか」「子育てはつまらない」という、人間の価値観として外れたものになってしまうと思います。思春期の子供たちの訴えている事を良く聞いてあげて命がけで向き合っていくと必ず元に戻る事が出来るのですが、パニック状態の中で出来ていないのが事実です。

しかし、子供の幸せを願わない親はいませんし、子どもが幸せにならない限り自分自信も幸せにはなれないのです。子供さんと七転八倒して戦う事により喜びというエネルギーが生まれて来るのです。

親御さんたちは、学校や社会の価値観の影響を受けて生きる力の前に暮らす力を子供に授けようと躍起になっていた、また教育も競争の教育で枠からの突出を矯正する事を強制した管理の教育が今まで行われてきてしまいました。子供達は絶えず恐ろしく恐怖の教育を受けていたと思います。その結果、今では

教える事も面倒くさい親や先生が増えてきているので、育つ事自体が難しくなっています。ですからこれからの教育に求められていくのは、心と心の響き逢う教育や教育協力をして行く事が大事になると考えます。登校拒否の問題にしましても学ぶ事に喜びを持たないお子さんが増えています。今までの、早く良い学校に入る、早く良い社会に出る、そのための知性を育てるという知育に力を入れた事により、感情の部分本能的な所を受け止めて来ませんでした。その事が戦後40年位経った今結果として出てきています。知性を高めていくには感情がしっかり育っていないと難しくなります。日本人は70年代位まで優秀で学力も高く世界でも活躍していました。戦後の押し付け教育によって「無気力」「無関心」「無感動」「無責任」が生まれ、学力の低下も見られる様になり、道路に平気で座り犬や猫の様に食べ物を食い散らかしたり、電車の中の横暴さなど、自分の置かれた空間の中で自分はどの様な立場であるのか大人に成る為の最低条件である物事を考える思考力の無くなった、大人になれなかった人たちが増えてきた訳です。

現在の子供たちの事を見ていると淋しい子供達だと可哀そうになります。人間の本質の「品格」「品性」といったものをもっと大人が知らせてあげる事が大事であると思います。本物の喜びは自分を高め立派な自分になる事が楽しみなのです。＜資料1『心の発達段階』の図参照＞人間は欲求で生きている訳で、『おなかがすいた』と言う要求があって『ご飯を食べる』欲と行動が一致しています。ですから、子供たちも本当の気持ち満たされていれば、健康な行動に移る事が出来るのですが、気持ちが満たされずに『2番手』『3番手』の行動で我慢しなければいけない。その様な食い違いが『髪を染める』『喧嘩をする』という行動に現れてしまいます。今、子供は何を本当に求めているのかを判る事によって子供は自分を育てる力が出来てくるのです。

社会学者のマズローの分析に、第一段階として生理的な欲求、お腹がすくと食べる。それだけでは不安なので、外敵や寒さから身を守る為に洞穴を作り安心感を満たします。安心した次の段階では、外に出ていく、人間は1人では生きて行けませんので集団を求めるようになり、その集団の中では私を認めて欲しい、私を正当な評価して欲しい、第一には『私は皆に好かれたい』という事を求めていきます。私は皆に嫌われたいと思う人は誰一人居りません。本能は誰からも好かれたいと言う気持ちがある訳で、認められると初めてご自分の為さるべき仕事に向かえるのです。

ここに例えとしてある営業マンのお話をいたします。『会社の部署の中で自分が上司と関係が良いと「よしっ来期はどの位営業成績につなげよう」と思う、しかし自分はいつも嫌われているという気持ちになるとそればかりにエネルギーが使われて仕事にはならない』『家庭の中で子供が家庭内暴力を起こしている。会社で会議中にも仕事の話が伝わってこないと、「どうでもいいや」「どこかに行ってしまいたい」その様な気持ちになってしまう』と言われる方がいらっしやいました。

自分自身の気持ちが満たされて居ないと次の仕事へ向かえない、行けない。

大人でさえもこの状態に陥る、まして子供ならなおさら、家庭の中で自分の存在を認めてもらえない。自分は嫌われている。邪魔者にされている。自分は居ても仕方が無い。自分は生まれてこなければ良かったなどと思っただけでは、勉強などできる訳がありません。

子供たちに勉強をさせたいのであれば、今の子供の気持ち、感情を全て開放してあげて心の中を綺麗で良い環境にしてあげる事が大事な事であると思います。仕事や勉強に対する評価、偏差値等、他人の付けた評価ではなく自分が自分自身に付けた評価が出来るようになると今度は個人として人生をどの様に送るかという立派さに向かう事が出来てきます。段階をふまずに行くと歪みが出てしまう事を親が認識してどのレベルが足りないのか絶えずその段階に最適な言葉の投げかけをする事で次のステップへ向かって行く事が出来るようになります。

子供は思春期に体と心で危機感を感じています。自分の居場所が無いと感じ自分が果たしてここにいて良いのか悩んでいます。その様な危機感を感じさせないためにも小さい頃から、あなたはあなたで良い、あなたはこの家庭で愛されているという思いをたくさんあげていると、安心してその時期を乗り越えていける。

何かを始めるのはどの様な人でも怯え失敗を恐れます。間違いは駄目だと言われているとちょっとした事で自分は駄目なのだとして手を放してしまうのです。ですから親は不完全で良いのです。出来た事だけに良かったと拍手を送り力付けていく事で、危機に対して『よしっ頑張れるよ』と自分を力付けて乗り切っていくべきです。

人間関係についてはこの時期人との関わりが非常に恐くなります。新しい生活に入ることが挑戦ですので、心の中で親を恐れている子供が難しい状態に陥りやすいです。いつも親にコントロールされていたり、条件付で愛されているなどを身に付けていると、学校へ行き先生や友達の評価を気にして落ち着かずにいるような事があります。子供が自分を信じる力を創るには青年期にかけて自分が自分で良いのかという自問、自分自身のアイデンティティ（自身の独自性・個性）を模索していく訳です。小さい時から個々の気質の違いを認め合い理解して接していれば問題なく素直に褒める事が出来てきます。その事を認め合う事が出来ないでいると問題は起って来る訳ですから、そこを改善して気質や良いところ、その子に対しての喜びを感じてあげる事で青年期を楽しく乗り切っていく事が出来ます。

私たちの育て方に体さえ育っていれば心も育つと勘違いがありました、その事に気付かないでいると思春期の時に間違いを子供から突きつけられる訳です。昔であれば環境が良かったので自然に心も育つ事もありました。現代のこの様なストレス社会の中、核家族で人間関係が薄くなっているところに地球の自然環境も悪くなっている。その様な環境の中では心に焦点を合わせて行く事が大事になってきます。今のままでは人間が人間で無くなってしまおうという事態が起きてしまいます。

私たちは体のご馳走としては五大栄養素を誰でも知っているし誰が何時でもあげる事が出来ます。体の栄養は誰から貰っても5歳ならば5歳の10歳ならば10歳の体になる事が出来ますけれど、愛情が無く心を伴わない与え方をしているとそうはならない場合があります。20歳になれば20歳の体に成長はありますが心がそれに付いていけない事が今の思春期（大人も含めて）に大きな問題となっています。父親になっても父親の心が出来ていない、母親になってもまだ思春期時代の娘を演じている。不完全で良いのですが、ある程度のゆとり、土壌があって初めて大人になった時伸びていく事が出来るのです。その土壌を作っている途上に、今までは厳しくさえ育てれば子供の精神は強くなると勘違いして来てしまっていたので心のご馳走とは何なのかもう一度私達が考え直す必要があると考えます。では心のご馳走とは何か、先ほども少し触れましたが『喜び』と言う事です。喜びの1番は『嬉しい』これは甘えられる事なのですが、甘えられえる事と甘やかす事を混同されてしまいがちですが、『甘やかす』は親が自分自身の気持ちをお子に与える事であり、『甘える』と言うのは子供自身が生命の源命のルーツへ無条件で安らぎを求めて行く心の要求であります。ですからその事に答えるのには言葉のパワーが非常に大きな力を発揮します。言葉は音声だけではなく表現や動作なども入ります。

『あなたの事を好きだ、世界一好きだ』この様な事を言われて育つ子供は精神的に非常に強い子供になります。精神的に強いという事は、判断力、集中力、解決力といった自分を育てる力がとても強く育ちます。とくに『宝物だよ』と言う言葉はパワーがあり、東北では子供の事を『お宝さん』と呼ぶそうです。日本の言葉、とくに古代語はパワー自体を言葉に使っているのです。細胞と会話できるのではという気がします。

言葉の次に大事な事は『味方』をする。私たちはつい『あなたが悪いからよ』『いじめられない様に口答えして来い』と言ってしまいがちですが、出来ないからいじめられてしまう事なので『お母さんお父さんは死んでも天国からあなたの味方しているよ』と言葉や動作で示してあげて戴きたいのです。子供は今何を悲しんで何に苦しみ何に淋しがっているのかを理解して徹底的に味方をしてあげて戴きたい。

ある中学生が思春期に学校で大暴れした時に学校の先生が『こんなに暴れるのなら明日から学校へ来なくても良い、只約束しておくもう一回許してやるから、もう一度暴れたら今度は駄目だぞ』と家に電話すると、その家のご両親はとても教育熱心な方でしたので『そんな悪さをするような子に育てた覚えは無い』と子供を怒った訳です。

「もし又悪さをしたら、風呂場で十回水をかけるよ」と言い渡しました。そのお母様はその事をしないといけないという錯覚に気が付いていないので、冬の寒い最中『こんな子に育てた覚えはない』と怒りながらお風呂の水をかけたそうです。その間子供は冷たい顔をして母親を睨んでいたそうです。今でもあの目は忘れないとお母様は泣かれていますけど、その子はその後不登校になり、万引きをしたり益々荒れてしまったのです。

この時ご両親は子供にとって味方ではなく敵にまわっていた訳です、ご両親は社会の通念で生きていますから、学校の方は困るだろうと先生側に立っていますが、この様な場合は子供を救う事が最優先で善悪は関係ないのです。正論で言っていると子供は育ちません。その時の子供の気持ちを開放してあげる事が第一なのです。子供に対して厳しく管理や否定を何度も繰り返していくとお母さんに何を言っても自分の気持ちは分かって貰えない、自分が悪い子みたいで悲しくなる悔しくなる。悔しくなるが言い返せない、その様な気持ちが積み重なって我慢して来た事が爆発した訳なのです。

その事実に関わり合いあって1つ1つ謝り味方し解決して行く事でこの少年は回復する事が出来ました。

悩みの大元は淋しさにあります。自分の事が解かって貰えない寂しさ、親や先生など大人の期待どおりの大人になれない罪悪感を伴う不安感で一杯なのに、厳しく怒られたりする事で自分から感情を抑えて行くので感覚まで麻痺をしてしまい無感動無関心といった行動に出てしまいます。思春期で大事な事は、あなたは間違っていないよと過去形で伝えてあげる事です。未来形では今を認めて貰えていないので効果がありません。子供のした事の善悪は別としてその時に自分の本物の想いで行動した事なので、感じたことそれ自体にマルを付けてあげる事が大事です。自分の気持ちがストレスで苦しい時、自分の味方をされることでストレスを消化して行く、子供達は自分のしている事が正しい事なのか間違っているのか判断が出来ていて行動に移していますから、味方をして心の足場を固めてあげる事で、自分が正当化されて始めて立ち直る事が出来るのです。

人生終焉の時に『こんな人生つまらなかった』とお思いになる事は失敗かも知れませんが、プロセスが大事ですから、1つの体験を勝利に持って行くか敗北に持って行くかは自分次第と言う事になります。人を育てるのは、1人1人全部違うのが当たり前なのですが共通項という物は存在しますし後は基本を応用して子供の事を信じきっていく。ここで誤解をして戴きたくないのは、罪を起こした子供が罪を犯してはいませんと言う事が信じると言う事にはなりません。事実はしっかり見抜き、正しい情報はしっかり握りその子はなぜその様な行動を起こしたのかと言うところに立ち向かって、その感情を必ず埋めていく事が私たちの作業になります。

大勢の子供さんに『自分の好きなところは』という質問をすると大抵返事がありません。その反対に『自分の嫌いなところは』という質問にはたくさんのお返事が返ってきます。それは親に絶えず言われているので自分自身でレッテルを貼ってしまっていて、1つ1つ良いところを確認させてあげると認識する事が出来るのです。良く考えてみればレッテルの裏には正反対の事柄が存在していますから、ご自分の好き嫌いの判断では無く角度を変えた、見る眼を持たれる事が望ましいと考えます。

心の環境はお父さんお母さんの声や言葉、表情や反応によって決まります。大きな位置をしめるのが言葉ですが、普通コンピューターなどでは変な情報が

入ってくるとエラーで片付けてしまいますけれども、人間の場合は目で見た事や耳で聞いた事が自分にとって必要の無い事も無条件で入って来てしまいますから、神経がすぐに反応してホルモンにも影響が出て嫌な気持ちになった時には健康的な判断が出来ない状態になってしまいます。言葉を直接裏まで考えずに感じ取りますから、喜ばせる嬉しくなるような言葉をたくさんあげないと、愛情という物は貯金できません瞬間瞬間に使いきってしまうものなので、親は褒めたいのだからと毅然として真剣に伝える。

言葉は本当に大事でマイナスの言葉ばかりを投げかければネガティブな心の環境になって本当の力が出せなくなってしまう、親は子供の幸せを祈っていますけど、子どもは親以上に親の幸せを祈っているのです。

現在は大人よりも子供の方が情報を先に知っているような時代ですから、自分の気持ちを会話で伝え合わないと判らないですし、聴く力と語る力が両方備わっていないと対話にはなりません。語るという事は物事の筋道が堅実に行かないと対話が成り立ちません。ですから対話力というものがここで必要になってきます。対話とは感情と気持ち、気持ちと知性がサンドウィッチの様に重なって成り立ちます。

ここでもう1つ事例を挙げます。

ある集まりの人達が子供を引率して千葉へキャンプファイヤーに向かう途中、小学1年生位の女の子が『東京はどっち』という質問を投げかけます。最初に若い付き添いの男の子のところで質問をすると男の子は『お前は又仲間から離れて駄目じゃないか、お前はいつも勝手な事ばかりして、早く皆と一緒にご飯食べて来い』と質問に対する答えを言わずに怒ってしまう、すると女の子はふてくされて今度はやさしい元校長先生の所で同じ質問をします。校長先生は優しい口調で『東京か、東京は西にあって西って判るかい？お日様沈む方だよ』と夕日の沈む方角を指差します。対話としては成り立っているのですが、女の子は泣きそうな顔をして、次に女の先生の所へ来て質問します。その時女の先生は女の子を抱きしめて『お母ちゃんに逢いたくなかったのね』と言うと女の子は明るくなって皆と一緒にご飯食べてこなきゃと行ってしまいました。自分自身でそこへ行く訳です。これが会話の極意で家庭での会話の秘訣です。

最初の男の子との場合は命令と管理と拒否にあたり悔しさが生まれます。次の校長先生の場合は言葉だけを聞いてセリフに対しての回答をしているだけで心には触れていません。女の先生の場合、女の子のその時の気持ちを察して答えた事で、自分の事を好きなのだ味方してくれているからこんな事を言っても良いのだと自分に対して信じる事が出来て安心する事で、みんなと一緒にご飯を食べなくてはという知的な自分のやるべき行動に移る事に心が向かった訳です。言葉を聞く方に感性がある事が必要で、個の時代には人の気持ちが解からない人は排除されてしまいます。苦労や辛い思いの体験が貴重な存在として扱われる。

伸びていく子供の条件として良い人に出会えること、良い人というのは自分の気持ちを無条件で『受け止めてくれる人』『全部吸い取ってくれる人』『知

りたい事を丁寧に諦めず忍耐強く教えてくれる人』『思いやりのある優しい人』その様な人とであった子供はとても伸びて行きます。

語る事に付いては今までわたくし達は無造作に自分の本能を丸出しにして、後でこの様な事は言わなければ良かったと後悔や反省する事が多いですが、子供を躱けるうえで根本において戴きたいのは5つのSです。

尊敬・尊厳・社会性・責任感・センスなど生活力を養う為のガイドラインを体験する事が今求められています。命に関しても、自分が生まれて来るまでのプロセスをその間の感情を交えて暖かい言葉で伝えて欲しいと思います。自分の存在が物のように作られたのでは無く奇跡に近い幸運のもとに生まれ出でた命の喜びをそして男と女の存在とそれぞれを尊敬する気持ちを教えていく事が大事です。

時として会話をして感情的になり自分自信を主張する事が語る方に見受けられますが聞き手も語る方も相手に解かって頂くという気持ちで接しないといけません。私を理解して頂かない限り相手は行動を伴ってはくれません。聞いて当たり前という形では伝わりません。あなたが何々といった『あなた』を主語にするのではなく『わたしが』を主語にして相手に事実を忠実にあなたがしている事でどのような影響が自分にはあるけれどあなたはどの様に思いますかと問いかけ子供自身に考えさせる事が効果的です。この方法は子供に対してだけではなく会議などにも有効です。

これから性の問題や薬の問題などが心配な時期ですけれども、遠くから見守る時間も必要ですが子供の要求を命がけで答えるとか、自分の存在を親がどれほど大切に思っているかなどを見せる事も必要です。人間の心は版で押した様には行きません。子供の心に響く対話の実践は何が足りていないのか良く察してあげる、全力で気持ちに答えてあげる。なりふりかまわずに示してあげる事で子供は気付く事が出来て立ち直っていただけますので、支える側の価値観を変える必要を感じます。

宇宙の自然のリズムという物が存在します。それに伴い社会現象にもリズムがあり、文明の発達する時と文化の発達する時と波のようなリズムがあります。今の時代のリズムは個々の好奇心や発想、人が出来ない事を出来る人がHappyになる訳で、今はこの子が必要な事柄なのでこのような事をするのだと一度受け入れてあげて、一番良い幸せな時を増やせるように援助してあげてください。問題を起こした時には子供がどんなに辛かったのか苦しかったのかを気付いて詫びてその子の存在そのものをありがたいと感謝する。そして充実した毎日を送って欲しいという祈りをささげていく事が大事であると思います。

その勇気をいつも持てるように大勢の仲間と支えあい進んで行きたいと思えます。